

平成29年6月 7日
青森森林管理署

地域住民の方の体験林業活動に フィールドの提供と職員の派遣を行いました

平成29年6月3日（土）、青森市内の沖館地域緑の募金推進協力会・小学生で構成するヒノキアスナロ緑の少年団・ヒノキアスナロ緑の少年団育成会の30人あまりが参加しての体験林業活動が、浅虫ダム近くの青森森林管理署管内の国有林で行われました。

この体験林業は、郷土の緑豊かな環境づくり、森林・林業に対する知識向上を目的として毎年実施しているものです。

当署からは署長以下4名の職員が活動の技術指導を行いました。

活動場所は植樹後25年が経過したスギ林で、のこぎりを使ってつる切り、枝打ち作業を行いました。

「つる切りや枝打ちというのは、50年、100年かけて木を大きく育てていくための作業の一つです」等、今回の作業について署長と協力会の方から説明を受けた後、参加者の皆さんは、集合場所の浅虫ダム駐車場から元気いっぱいの子どもたちを先頭に森へと向かいました。



署長から今日の作業について説明



職員に質問する子どもたち

子どもたちは、変わった形の木の枝を見つけてはしゃいだり、「クマはいますか?」「この川はどこから流れてきているの?」と職員に質問したり、普段生活している場所とは違う「森林」という環境をととても楽しんでいるようでした。

この浅虫ダム付近の国有林をフィールドとしたつる切り・枝打ち体験作業は今年で4回目ということで、慣れている参加者の方はスムーズに作業を進めていきました。はじめはなかなかうまくつるや枯れ枝を切ることができなかった子どもたちも、「力を入れすぎないで」などの署員の指導を受けながら、だんだんとしっかりしたのこぎりの音をスギ林に響かせていました。枝を落とすたびに歓声をあげる子、黙々と作業をする子・・・一生懸命な様子に、引率の地域の方、職員ともども思わず目を細めていました。



1時間ほどの作業を終えると、枯れ枝やからみついていたつるがなくなって、参加者のみなさんには達成感とともに、枝打ち・つる切り作業の意義を感じていただけたように思います。

浅虫ダム湖畔での昼食をとってこの日の活動は終了となり、帰りのバスに乗り込んだ子どもたちは職員にさかんに「バイバーイ！！」と手を振ってくれました。普段、認知度がいまいちだと感じている「森林管理署」ですが、今回の活動を通じて良い形で多くの方に知ってもらえたのではないのでしょうか。

青森森林管理署では、地域の方々の森林ふれあい活動や林業体験をサポートする活動を今後も行っていきます。